

KANSAI CITY PHILHARMONIC ORCHESTRA THE 48TH SUBSCRIPTION CONCERT



関西シティフィルハーモニー交響楽団

第48回定期演奏会 | 2009年9月20日〔日〕 14:30
ザ・シンフォニーホール

主催—関西シティフィルハーモニー交響楽団
協賛—株式会社 ASK PLANNING CENTER



2009年2月8日、ザ・シンフォニーホール、第47回定期演奏会

関西シティフィルハーモニー交響楽団

(社)日本アマチュアオーケストラ連盟加盟団体
大阪文化団体連合会会員団体

1974年各大学オーケストラの卒業生を主たるメンバーとして、関西OB交響楽団の名称で結成。1994年創団20周年を機に現在の団名に改称。“アマチュア精神に基づく、グレードの高い社会人オーケストラ”をモットーに、年間2回の定期演奏会をはじめファミリーコンサート等を、意欲的に開催しています。近年は指導体制の充実に力点を置き、有能なプロの先生方を指揮者や指導スタッフに招聘して研鑽を積んで参りました。中でも、1998年より4年間、ズラタン・スルジッチ氏(現ドゥプロヴニク交響楽団首席指揮者)を常任指揮者に招聘し、その指導を仰いだことにより「音楽的に大きな飛躍を遂げた」との評価を

内外から得ております。また組織としても「若い力」を積極的に運営面に活かし、“常に成長するオーケストラ”を目指して努力を重ねております。2004年8月に大阪市内で開催された「全国アマチュアオーケストラフェスティバル大阪大会」では、開催主管団体として、当団の組織力を遺憾なく発揮し、フェスティバル成功の原動力として、連盟をはじめ全国のアマチュアオーケストラ各位から、高い評価と大きな賛辞を頂くことができました。毎週土曜日の夜、指揮者やトレーナーの先生方の指導のもと、真剣な練習を行っており、現在団員数は、約100名を有します。

ごあいさつ



阿保 幸雄 Sachio Abo
関西シティフィルハーモニー交響楽団 団長

本日は、私共の第48回定期演奏会によるごそお越し下さいました。

本日のプログラムをご覧になられた音楽通のお客様は、2曲目の組曲「薔薇の騎士」に歌のソロと合唱が入っているのにアレ？と思われたことでしょうか。本日演奏致しますRobert Mandell版は実はオーケストラ単独で演奏されるR.Straussのオリジナルの組曲とは曲の構成もかなり違って、歌劇のハイライト版といった性格が強く、従って歌劇そのままのソロおよび合唱が演奏されます。本日は関西二期会会員とプロの声楽家、池田ジュニア合唱団に賛助出演いただきます。この方々のご指導ご協力が無ければこの曲の演奏は不可能でした。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

当団には一度演奏した曲は、その後10年間は演奏しないという不文律があります。多くの団員が再度演奏したいと待ち焦がれる曲が数曲ありますが、その筆頭がこのBrahmsの第1交響曲でしょう。やっこの曲を演奏できると、団員一同がいつもより一層嬉々としてこの曲に取り組んでいるのが感じられます。前回の第47回定演でのMahler第2交響曲の演奏で、多くの皆様方から絶賛を頂いた我が常任指揮者ギオルギ・ババアゼ氏の名指揮のもと、我々の熱演にご期待下さい。

末筆となりましたが、ご来聴の皆様方には今後とも当団に対し、温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ヴェルディ
歌劇「運命の力」序曲

R.シュトラウス
歌劇「ばらの騎士」組曲

元帥夫人 河出 綾子
オックス男爵 萩原 寛明
オクタヴィアン／アンニーナ 中原 由美子
ゾフィー 四方 典子

男声アンサンブル 五島 真澄
中村 征司
西村 明浩
福井 雅志
藤野 豊
山本 康寛

児童合唱 池田ジュニア合唱団
(合唱指揮 しづやかよこ)

ブラームス
交響曲第1番 ハ短調 作品68

1. Un poco sostenuto - Allegro
2. Andante sostenuto
3. Un poco allegretto e grazioso
4. Adagio - Più andante - Allegro non troppo, ma con brio

指揮—ギオルギ・バブアゼ

管弦楽—関西シティフィルハーモニー交響楽団

ヴェルディ
歌劇「運命の力」序曲

1862年にサンクトペテルブルグで初演されたこのオペラの序曲は、歌劇「ナブッコ」序曲と並び単独で演奏されることが多く、彼の作品の中でもとりわけ人気の高い曲である。

しかし初演当時はもっと短い前奏曲が演奏されており、この序曲は1869年の改訂時に補筆されたものである。

ヴェルディは1813年生ハム、チーズ、そしてサッカーで有名なイタリアのパルマ地方に生まれ、1901年ミラノで88年の生涯を閉じた。当時としてはかなり長命であった。

さて、歌劇「運命の力」はサンクトペテルブルグのマリンスキー劇場のために作曲されたが、題材となったスペインのリヴァス公による同名の戯曲は反宗教的な面で、当時としてはかなりスキャンダラスな話題品であった。主人公アルヴァーロはその血筋のため相思相愛のレオノーラとの結婚を反対され、銃の暴発で意図せずレオノーラの父カラトラヴァ公爵を死なせてしまう。公爵の息子カルロは仇敵アルヴァーロを追いやがて決闘の末重傷を負う。そしてレオノーラは瀕死の兄カルロに殺され、原典版ではアルヴァーロも投身自殺し主要登場人物が全員死んでしまう。改訂版ではアルヴァーロの投身自殺はなくなったがそれでも悲劇的な内容であることに変わりはない。

序曲は印象的な金管楽器の3つの主音から始まり、曲を支配する暗く不安な弦楽器の運命の旋律、悲しげな木管の旋律など各登場人物のテーマが演奏され、クラリネットによる美しいアルヴァーロのアリアから曲は盛り上がり壮大に終わる。

ヴェルディにとって最後の序曲になった「運命の力」序曲ですが、様々な表情を持つメロディーと、歌劇の序曲としての構成のすばらしさを御堪能頂ければ幸いです。

(HORN 山部義幸)

ブラームス
交響曲第1番

ブラームスは生涯で4つの交響曲を作曲しましたが、1番目の交響曲が完成した時、彼は既に43才になっていました。ベートーヴェン以降交響曲の分野において次代を担う決定的な形式が現れなかった事、また彼が敬服していたベートーヴェンの9曲の交響曲に並ぶものを作らねばという意識が強かった事から創作は慎重に進められ、青年期から始まった創作は完成までに20年以上を費やし、1876年に発表されました。その年月の長さからブラームスの完璧主義と交響曲作曲への意気込みが感じられます。

後に「ベートーヴェンの第10交響曲」と評されたこの曲は、随所にベートーヴェンの強い影響が現れており、例えば第1楽章には第5番「運命」で有名な4音の動機が登場し、第4楽章の主題は第9番「合唱」の主題とモチーフが似ています。また全体の構成も、暗から明へと向かっていくベートーヴェン的な構成に共通しています。しかしオーケストレーションや和声の使用法、曲の構成は見事にロマン派の特徴を備えていて、単なる古典主義への回帰ではない新時代の作品だったことがうかがえます。希望の光と孤独の影が表裏一体で表現される美しい音の響きと、長い闇を抜けた後の喜びに溢れた開放感が伝わってくる構成がいつの時代も人々の心を捉え続けているのでしょう。

第1楽章は低音楽器とティンパニによる力強い動機が印象的な序奏から、エネルギーで情熱的な主部へと続きます。悲愴感と重厚さに満ちていますが、最後は希望の光を残す色調で終わります。第2楽章は明るい調性ながらもブラームス独特の孤独な影を漂わせています。オーボエとバイオリン独奏が絡まり合いながら明暗併せ持つ旋律を奏で、バイオリン独奏がきらめきを残しながら消え入るように終わりを告げます。第3楽章には古典交響曲の定型であるメヌエットやスケルツォではなく、あえて三拍子ではないインテルメッツォを配し、優雅かつ素朴で鄙びた情緒に溢れています。第4楽章は再び悲愴感を漂わせた序奏で始まりますが、ホルンやフルートの輝きに満ちた旋律とトロンボーン・ファゴットの天から降るようなコラールがこれから始まる喜びの歌を予兆させます。続く歓喜の歌から壮大なクライマックスまでは高揚感に溢れていて、奏者にとってまさに至福の瞬間といえます。長年愛されてきたこの名曲の持つ力に触れ、ご来場の皆様にも共に人生の喜びを感じていただければ幸いです。

(VIOLINCELLO 廣瀬 恵子)

conductor

ギオルギ・バブアゼ 指揮
George BABADZE

関西シティフィルハーモニー交響楽団
常任指揮者



1962年グルジア共和国トビリシ生まれ。トビリシ国立音楽院にてシウカシュヴィリ教授にヴァイオリンを、オディセイ・ディミトリアディー氏に指揮を学ぶ。モスクワにてポロディン弦楽四重奏団のベルリンスキー氏に師事。1986年より5年間バトゥーミ市交響楽団の指揮を務める。1990年よりグルジア音楽協会室内管弦楽団の芸術監督および首席指揮者を務め、フランス、ドイツへ演奏旅行。その他、国内外におけるオーケストラのヴァイオリン奏者としてイタリア諸都市で演奏する傍ら、グルジア弦楽四重奏団のメンバーとしても活躍。1996年より大阪シンフォニカー交響楽団のコンサートマスター、2001年10月より関西フィルハーモニー管弦楽団のコンサートマスターに就任。2002年4月より京都市立芸術大学ヴァイオリン専攻科非常勤講師も務める。トビリシ弦楽四重奏団メンバー。2005年より、関西シティフィルハーモニー交響楽団常任指揮者就任。

R.シュトラウス

歌劇「ばらの騎士」組曲

<歌劇「ばらの騎士」組曲について>

歌劇「ばらの騎士」は、近代ドイツの作曲家リヒャルト・シュトラウス(1864-1949)によって作曲された歌劇(オペラ)の一つで、1911年の初演以来、現在に至るまで演奏の度に大ヒットを飛ばし続けている傑作の一つです。

歌劇の舞台は18世紀ヨーロッパの帝都ウィーン、32歳の元帥夫人と不倫関係にあった17歳の青年貴族ロフラーノ伯オクタヴィアン*が、遠戚のオックス男爵の婚約の証である銀のばらを婚約者へ届ける「ばらの騎士」を承ったことから話が展開されます。花婿となるオックス男爵の下品な中年オヤジぶりに失望した15歳の婚約者ゾフィーが、彼女に一目惚れしてしまった「ばらの騎士」オクタヴィアンと恋に落ち、元帥夫人や多くの人々の協力を得て男爵の婚約を退け、若き二人の恋が成就して大団円を迎えます。

また、この歌劇は歌唱なしでも曲として成り立ってしまうほどオーケストラの伴奏部分が充実しており、それに目を付けた作曲家や多くの編曲者が、歌劇の中でも特に美しい部分を抜粋してオーケストラ専用の組曲に編曲してきました。

今回演奏するRobert Mandell版の組曲もその一つですが、一部を除いて歌劇の進行に合わせて構成されており、一般的な組曲にはない歌唱も付けられています。演奏時間は約30分弱と、歌劇の演奏時間(約3時間)に比べてかなり短くなっていますが、選りすぐりの名場面ばかりで、歌劇の魅力が十分に伝わるような構成となっています。

※オクタヴィアンは男ですが、彼の役はメゾ・ソプラノの女性が演じるよう指定されています。いわゆる「スボン役」です。

<組曲の各場面について>

この組曲は全3幕の歌劇から抜粋された8つの場面から成り立っていますが、各場面が途切れなく続き、全体が一つの曲となっています。(斜体字の言葉は、歌詞としてドイツ語で歌われる部分です。)

1. 前奏曲(第1幕の最初)

オクタヴィアンと元帥夫人の一夜の情事を描いています。最初に出る雄々しく隆起するようなホルンの旋律が、若さに任せて元帥夫人へ挑み掛かるオクタヴィアンを象徴し、その後に艶やかな旋律を奏する弦楽器群が、成熟した肉体で彼の雄々しさを受け入れ、悦楽の声を上げる元帥夫人を象徴しています。2つの旋律は情事さながらに激しく絡み合い、法悦の極みに達します。

2. 結婚に期待するゾフィーと「ばらの騎士」登場(第2幕の前半)

ばらの騎士の名(ロフラーノ)を呼ぶ声が聞こえる中、ゾフィーは結婚とばらの騎士の登場の期待に胸をふくらませています。

(ゾフィー)

ああ、神様・・・今の私は謙虚にはなれませんわ・・・だって、あまりにステキな事ですもの!

その後、音楽が最高潮に達したところで、ファンファーレと共にばらの騎士が颯爽と登場します。

3. オクタヴィアンの一目惚れとゾフィーの期待の絶頂(第2幕の前半)

銀のばらをゾフィーに届けたオクタヴィアンは、彼女の美しさに一目惚れます。しかし、ゾフィーはいまだ結婚への期待で頭がいっぱいです。

(ゾフィー)

まるで天国からの挨拶のようで・・・胸がキュン♥となっちゃう!・・・ああ幸せ・・・この瞬間を死ぬまで忘れない!

(オクタヴィアン)

この人を知らなかった・・・ぼくはまだ子供だった・・・何て幸せなんだ・・・この瞬間を死ぬまで忘れない!

4. オックス男爵の有頂天ワルツ(第2幕の終盤)

オックス男爵は前に一目惚れした元帥夫人の召使いマリアンデル(実は女装したオクタヴィアン)からの手紙を受け取りました。手紙を持ってきた陰謀屋のアンニーナに中身を読ませたところ、それは郊外の旅籠で逢い引きしたいという熱烈なラブレターでした。それを聞いたオックス男爵は策略とも知らず、有頂天になってワルツの調子で歌い始めます。

(オックス男爵)

そうさ、わしや幸運児・・・わしがいなければ毎日が退屈・・・わしと一緒に夜も嬉しい・・・

(アンニーナ)

旦那様、私へのお心付けをお忘れなく!

ここでケチな男爵はアンニーナへ礼金を払わなかったため、彼女は男爵を恨んで、オクタヴィアンの策略に荷担することとなります。

5. 旅籠で大騒動!オックス男爵の土壇場ワルツ(第3幕の後半)

旅籠での策略にはめられ、結婚も破談となって面目丸つぶれになったオックス男爵が引き上げようとしたところ、「食事代払え!」「ろうそく代払え!」「演奏代払え!」と旅籠の下男や楽士などから騒ぎ立てられ、さらにアンニーナが仕向けた多くの子供達からも「パンパー!」と寄りつかれて養育費をせがまれ、旅籠中が大騒動となります。

6. 第2幕の前奏曲(第2幕の最初)

弦楽器群が速く細かい旋律を軽やかに演奏し、後半はゆっくりと優美な旋律になります。

7. オクタヴィアン、元帥夫人、ゾフィーの思いの交錯(第3幕の終盤)

オクタヴィアンとゾフィーが相思相愛にあることを悟った元帥夫人が、愛する彼のために、切ない気持ちを抑えつつ去ってゆく場面です。オクタヴィアンは「マリー・テレーズ・・・!」と元帥夫人の名を口にすもの、彼女を引き留められず、ゾフィーも含めた三者の思いは交錯します。

(元帥夫人)

あの人が他の人を愛しても愛しようと決めた・・・でも、こんなに早く来るなんて・・・あの人はよその娘と幸せになるのだから!

(オクタヴィアン)

本当にこれで良いのかあの人に訊きたい・・・でも訊いてはいけない・・・そしてゾフィー、きみだけを愛してる!

(ゾフィー)

まるで教会の中のような清らかで不安な気持ち・・・あの人は私から彼の何かを奪うような気がする・・・そして(オクタヴィアン)、あなたを愛してる!愛してる!!

なお、この美しい三重唱は最大の聴き所であり、作曲家自身も自分の葬儀での演奏を望んだほど気に入っていました。

8. 恋の成就と大団円(第3幕の最後)

オクタヴィアンとゾフィーの恋は成就し、二人は甘い二重唱でそれを謳歌しながら去っていきます。

(オクタヴィアン)

ぼくらは離れない・・・他のことは全て霧散していく・・・きみだけを感している!

(ゾフィー)

夢のようだよ・・・永遠に離れない・・・あなただけを感じている!

最後に残ったのは、ゾフィーが気付かず落としてしまったハンカチ1枚。そのハンカチを子供に召使いが拾い上げ、かわいく走り去ったところで、この歌劇の幕は素早く下ろされます。

(VIOLINCELLO 岩田 倫和)



河出 綾子

KAWADE Ayako,
soprano

京都市立音楽高等学校卒業。同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻卒業。同大学音楽学会《頌啓会》特別専修生修了。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程を首席で修了、修了時に大学院賞を受賞。第45回なにわ芸術祭新進音楽家競演会声楽の部、新人賞及び大阪府知事賞・大阪市長賞・協賛社賞受賞。これまでに田村忠男、藤花優子、三井ツヤ子の各氏に師事。オペラは『フィガロの結婚』スザンナ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『友人フリッツ』スーゼル、『藤戸』波の精役で出演。京都音楽家クラブ会員。

京都市立芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修了。ウィーン国立音楽大学卒業。これまでにオペラでは「カルメン」エスカミーリョ役、「タンホイザー」ヴォルフラム役をはじめ、「魔笛」「椿姫」「ナクス島のアリアドネ」「ミニヨン」「ランスへの旅」等に出演。また宗教曲の分野でも定評があり、バッハの主要なオラトリオやカンタータ、ヘンデル「メサイア」、ハイドン「四季」「天地創造」、モーツァルト「レクイエム」ペーターヴェン「第九」等のソリストを多数つとめ、オーケストラとの共演も多い。声楽を手島孝教、木川田誠、ヴァルター・ベリー、ヒルデツァデクの各氏、歌曲演奏解釈をヘルムート・ドイチュ、チャールズ・スペンサーの各氏に師事。現在、関西二期会会員、日本シュベルト協会会員、西宮音楽協会会員、ヴォーカルアンサンブルKyotoメンバー。また神戸女学院大学、兵庫県立西宮高等学校音楽科で後進の指導にあたっている。



萩原 寛明

HAGIWARA Hiroaki,
baritone



中原 由美子

NAKAHARA Yumiko,
mezzo soprano

同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻卒業。同大学音楽学会《頌啓会》特別専修生修了。第12回高槻音楽コンクール奨励賞。同コンクール入賞者特別演奏会に出演。第6回関西シティフィルハーモニー交響楽団ファミリーコンサート歌劇「タンホイザー」ハイライトにヴェーナス役で出演。大阪狭山市音楽祭「響け! 歓喜の歌」第九にてアルトソリストを務める。第42回なにわ芸術祭新進音楽家競演会、大阪フィルハーモニー交響楽団メンバーによる茨木マイホームサロンコンサート、大植英次プロデュース「大阪クラシック〜御堂筋にあふれる音楽〜」関西二期会フレッシュコンサート等に出演。米良俊之、金谷良三、田中千恵子の各氏に師事。現在、関西二期会準会員。

同志社女子大学学芸学部音楽学科演奏専攻卒業。同大学音楽学会《頌啓会》特別専修生修了。読売新人演奏会、なにわ芸術祭「新進音楽家競演会」、ジョイントコンサートなど多数の演奏会に出演。また、ペーターヴェン「第九」「合唱幻想曲」、ヴィヴァルディ「グローリア」等のソリストを務める。京都市交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、大阪シンフォニカー交響楽団等の関西の主要なオーケストラと共演。オペラでは、09年5月に関西二期会オペラ公演「ラ・ボエーム」のムゼッタ役で関西二期会オペラデビュー。その他に「コジ・ファン・トゥッテ」フィオルディリージ、「魔笛」侍女1、「ディドとエアネス」ペリンダ、「天国と地獄」エウリディーチェ役で出演。第7回ノーヴィ国際音楽コンクール第2位、第17回日本クラシック音楽コンクール一般の部第2位(1位なし)受賞。萩下英子、関定子の各氏に師事。関西二期会準会員。



四方 典子

YOMO Noriko,
soprano

■ VIOLIN

◎西 田 美音子
◎中 川 敦 史

赤 松 真 子
宇 山 雅 野
岡 崎 雅 樹
岡 崎 鈴 代
○小野寺 慶 太
加 藤 孝 司
加 藤 裕 紀 子
河 盛 晶 子
神 田 靖 子
久 保 有 加
小 坂 林 有 希
坂 元 由 妃
佐 向 恵 子
島 津 知 華 子
隅 谷 恭 子
田 中 貴 子
中 島 茂 雄
中 谷 日 出 夫
中 谷 道 代 里
難 波 千 悠 美
西 橋 村 本 敏 彦
橋 原 磨 恵 美
播 樋 口 貴 雄 子
藤 田 恵 子
益 子 一 和
○宮宇地 秀 裕
森 山 本 真 弓
和 久 景 子

■ VIOLA

有 馬 夕 稀
○池 田 景 子
井 戸 義 訓
入 江 隆 隆
太 田 真 紀 子
岡 恵 子
川 端 成 彬
更 谷 直 子
高 田 千 尋
福 田 真 紀 子
福 田 文 治
松 本 光 世
宮 崎 友 彰
森 本 涼 代 (客演)

■ VIOLINCELLO

安 彦 郁
阿 保 幸 雄
岩 田 倫 和
上 田 真 紀 子
小野田 素 大
○梶 元 綾
坂 元 正 三
豊 島 正 誠
富 樫 美 代
橋 本 恵 子
廣 瀨 子 樹
吉 川 秀 樹

■ DOUBLE BASS

○安 彦 哉
稻 葉 杏 子
清 水 奈 緒
長 岡 豊
松 本 昌 大
安 近 紀 子
渡 辺 昭 一
大 川 宏 明 (客演)
岡 田 典 子 (賛助)

■ FLUTE

阿 部 葉 子
姜 愛 順
北 田 真 維
○芝 野 均 均

■ OBOE

勝 山 貴 美 子
○西 山 健 市
玉 置 瞳 (客演)

■ CLARINET

安 彦 聡 子
打 田 正 樹
栗 山 明 子
○芝 野 範 子
細 野 巖 藏

■ FAGOTT

○一ノ瀬 圭 子
菅 原 咲 (団友)
竹 内 郁 夫
田 中 信 幸 (客演)

■ HORN

○織 田 克 洋
玉 井 杏 奈
富 田 千 尋
西 山 順 子
廣 橋 麻 理 子
山 科 幸 生
山 部 義 幸

■ TRUMPET

残 熊 祐 治
田 辺 和 樹
西 川 倫 史
○廣 橋 誠 司
山 田 浩 之

■ TROMBONE

柏 岡 亨
○金 昌 信
正 岡 千 明

■ TUBA

古 口 賢 一 (賛助)

■ PERCUSSION

○田 村 千 春
吉 田 恭 子
橋 本 邦 子 (客演)
三 宅 千 絵 (客演)
香 川 亜 耶 那 (客演)
松 山 美 香 (客演)

■ HARP

鈴 木 貴 子 (賛助)
橋 本 和 恵 (賛助)

■ CELESTA

中 谷 友 香 (客演)

□ 団長

阿 保 幸 雄

□ 副団長

柏 岡 亨

□ 運営委員長

山 科 幸 生

□ チーフパトリリーダー

廣 橋 誠 司
(兼インスペクター)

□ インスペクター

小野寺 慶 太
織 田 克 洋
宮 宇 地 秀 和

□ 総務

岡 崎 雅 樹
坂 元 正 三
富 樫 美 代
山 部 義 幸

□ 会計

田 村 千 春

□ 人事

栗 山 明 子

□ IT

岩 田 倫 和

□ ライブラリアン

井 戸 義 訓

□ 楽器

西 川 倫 史

□ 友の会

正 岡 千 明

□ 会計監査

長 岡 豊

□ 桂冠団員

大 川 進 一 郎
桂 松 田 豊 斉
(兼 相談役)

◎…コンサートミストレス
コンサートマスター

○…パトリリーダー

□ トレーナー

池 田 重 一 | 中 谷 葉 子
岩 井 英 樹 | 橋 本 口 好
高 野 昌 里 | 林 三 好
谷 野 里 香 | 本 撰 理 | 三 好 哲
田 本 撰 理 | 池 田 重 一 | 中 谷 葉 子

第49回定期演奏会

2010年 1 | 31 日

午後14:30開演予定
ザ・シンフォニーホール

指揮—ヤニック・パジエ

プロコフィエフ:「ロメオとジュリエット」(全組曲より抜粋)
ラヴェル:古風なメヌエット
ドビュッシー:交響詩「海」

宮崎バレエスタジオ第6回公演

2010年 6 | 27 日

開演時間未定
門真市民文化会館 ルミエールホール

指揮—高谷光信

管弦楽—関西シティフィルハーモニー交響楽団

ドリーブ:「コッペリア」(全三幕)

第8回ファミリーコンサート

2010年 9 | 20 月祝

開演時間未定
池田市民文化会館 アゼリアホール

指揮者未定

オルフ:世俗カンタータ「カルミナ・ブラーナ」
ベートーヴェン:交響曲第6番へ長調「田園」

第50回記念定期演奏会

2011年 3 | 6 日

開演時間未定
ザ・シンフォニーホール

指揮者未定

ハイドン:交響曲第104番「ロンドン」
R.シュトラウス:アルプス交響曲

演奏会の詳細につきましては、予告なく変更することがございますので、予めご了承ください。

関西シティフィルハーモニー交響楽団ホームページ

<http://kcpo.jp>

団員募集の
お知らせ

- ファゴット
- トランペット
- コントラバス
- 打楽器

募集中

練習日時 毎週土曜日 午後6:30~9:30

練習場所 北出音楽事務所 (JR・京阪「京橋駅」から徒歩10分)

お問い合わせは事務局まで [06-6136-1737]

◎事務局が変わりました。ご注意ください◎

なお、当団のホームページでも最新の団員募集情報を公開しております。

関西シティフィルハーモニー交響楽団
友の会

会員募集のお知らせ

当団では「友の会」の会員を募集致しております。会員になられますと ■当団主催演奏会のご案内 ■特別優待価格でのご案内 ■友の会特別席のご用意 等の特典があります。入会金、会費無料!!

友の会会員 お申し込み方法

*はがきでの演奏会のご案内をご希望の方……パンフレットに折込の申し込み用紙にてお申し込みください。お問い合わせは事務局までお気軽にどうぞ [友の会事務局 090-8378-2004 正岡]

・友の会のみなさまの個人情報は、演奏会のご案内など、当団の諸活動に関する用途以外には、一切利用致しません。